

地球環境と産業化研究会（SGEIS）

2022 新春セミナー実施報告書

概 要

テーマ：脱炭素経営への挑戦

～ カーボンニュートラルを目指した企業の戦略的プランと地域社会への貢献 ～

内 容：脱炭素化・2050年カーボンニュートラルを達成するには、戦略的なプランと実践が望まれます。「国内企業における脱炭素の取り組みは今後どのように展開するのか?」、具体的な取り組み事例紹介も参考にして、現状と将来展望について学んだ。

講演①脱炭素経営の取り組み方

一般社団法人環境エネルギー事業協会 代表 植杉昌敏 氏

講演②水上太陽光発電からカーボンニュートラル

株式会社二川工業製作所 サステナビリティ推進部取締役統括部長 藪本大輔 氏

日 時：2022年1月27日(木)15時～17時(14時50分開場)

15:00～15:05 主催者挨拶・進行について

15:05～15:45 講演① 15:45～16:00 質疑応答

16:00～16:40 講演② 16:40～16:55 質疑応答

16:55～17:00 事務局連絡・終了

場 所：オンライン形式（Zoom ミーティングアプリ）

参加者：14名、うち学生2名（16名、うち学生2名）（ ）の数字は参加申込者数

主 催：地球環境と産業化研究会

配布物

- 植杉昌敏、『脱炭素経営の取り組み方』（講演スライド）
- 藪本大輔、『水上太陽光発電からカーボンニュートラル』（講演スライドの抜粋版）
- アンケート

内 容

講演① 脱炭素経営の取り組み方

- 企業の脱炭素化推進には、「投資対効果」という企業経営の基本が成立することが重要であるが、脱炭素化経営の成功事例はまだ見られないのでチャレンジの領域である。企業が脱炭素

経営を推進するに当たって、現時点で出来る限りリスクミニマムをベースとした脱炭素化プログラムについて講演いただいた。

- 主な内容は次の5項目で、質疑で6名の発言があった。温対法改正の焦点や、脱炭素経営の重要性に関わる議論された。
 - ✓ 脱炭素の概要：パリ協定に至る経緯、メタ
ンも議論に
 - ✓ 脱炭素と企業経営：SBT、TCFD
 - ✓ 脱炭素の取り組み事例：4Step プログラ
ム、支援事例
 - ✓ 脱炭素と政策：省エネ法と温対法の改正、
大学等コアリション
 - ✓ 脱炭素と補助制度

講演② 水上太陽光発電からカーボンニュートラル

- 伐採や造成が不要で環境に優しいだけでなく、企業と地域が共存共栄する新たな事業スタイルの水上太陽光発電事業や、この事業を拡大していく中、売電するだけでは無くその発電した電気を取り込む必要性について講演いただいた。また、自社だけでなく自社サプライヤーにも使用電力再エネ 100%化を推進し、サプライチェーン全体でカーボンニュートラルに向けての取り組みについても講演いただいた。
- 主な内容は次の4項目で、質疑で7名の発言があった。水上太陽光発電設置の適地や、ブロックチェーンによるトレーサビリティシステムと非化石証書の調達に関わる議論があった。
 - ✓ ため池水上太陽光発電所設置に至る
経緯
 - ✓ サプライヤー使用電力の再エネ 100%
化の促進
 - ✓ 自社使用電力の再エネ 100%化
 - ✓ 今後の展開

以上(世話人 土井淳 記)